



郡山地域テクノポリスは、高度技術産業の集積による新事業創出を導く、東北のサザンクロス（南十字星）となることを目指します。

平成18年8月29日

●編集発行 財団法人 郡山地域テクノポリス推進機構 郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会

〒963-0101 福島県郡山市安積町日出山字北千保19番8 ビッグパレットふくしま3階 ☎(024)947-4400 FAX(024)947-4475

■ホームページのアドレス <http://www.techno-media.net6.or.jp/> ■Eメール【テクノ】[techno@nm.net6.or.jp](mailto:techno@nm.net6.or.jp) 【ニューコメ】[info@nm.net6.or.jp](mailto:info@nm.net6.or.jp)

## 「郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンター」オープン!



郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンター

(財)郡山地域テクノポリス推進機構が、国・県・郡山市・日本大学等の補助を受けて、日本大学工学部(郡山市田村町徳定)敷地内に今年3月から建設していた「郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンター」がこのほど完成しました。

同センターは、ものづくりによる新たな産業の創出を促進するための起業支援施設で、企業等の入居スペースのほか、東北初となるプロトタイプ(試作品)を製作するための工作機械を備えた試作センターを併設しております。

また、研究開発・事業化支援のための

専門家(インキュベーションマネージャー・技術指導員・技術コーディネーター等)を配置して、様々なサポートをハード・ソフトの両面から提供するとともに、郡山地域を中心とした大学等の知的資源や産業支援ネットワークを活用し、企業等の要望に応じて、技術シーズの事業化を支援してまいります。



郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンター/東側外観

名称	郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンター
住所	〒963-1165 福島県郡山市田村町徳定字中河原1番1
電話	024-926-0344
FAX	024-943-4441
E-mail	<a href="mailto:monodukuri@nm.net6.or.jp">monodukuri@nm.net6.or.jp</a>
URL	<a href="http://www.monodukuri.net6.or.jp/">http://www.monodukuri.net6.or.jp/</a>
設置・運営	(財)郡山地域テクノポリス推進機構

# 「郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンター」



## 趣旨

郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンターは、主として製造業等を中心に、新たに事業を開始しようとする方や新事業に取り組む企業を対象に、大学等と連携して新製品の研究開発をする場・プロトタイプ（試作品）を製作する場を、低廉な料金で日本大学工学部の敷地内に提供するため、平成18年8月に設置されました。

## 支援メニュー

新製品の研究開発による新事業創出の成功確率を高めるため、研究開発の指導者がいる大学の敷地内に、新製品のプロトタイプ（試作品）を設計・製作する《場》、試作のための必要最低限の《設備》、経営・技術両面での支援のための《人材》を提供いたします。

### 《場》

日本大学工学部キャンパス内に新製品の研究開発の拠点として、低廉な料金で入居可能な**起業支援室（貸研究開発室）**を提供。（24時間365日利用可）

### 《設備》

プロトタイプの製作に必要な各種工作機器を備えた**試作センター**の利用が可能。（高精度立体加工用マシンニングセンター等を設置）

### 《人材》

- **インキュベーションマネージャー**による経営・技術両面でのアドバイスや各分野の専門家・支援機関などの紹介。
- **技術指導員**による試作センターでの試作品製作の際の技術指導。
- **技術コーディネーター**による研究開発・起業化の助成支援、各分野の研究会開催、大学・公設試験研究機関等の研究者との連携。郡山テクノポリス圏域企業によるアライアンス（企業連携）形成への参加等。

## ◆郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンター入居企業等一覧

起業支援室No.	名称	起業支援室No.	名称
No.1	株式会社アイアールメディカル工房	No.7	有限会社ピーアンドエム
No.2	ジェンティア・バイオシステムズ株式会社	No.8	株式会社向山製作所
No.3	光城精工有限会社	No.9	福島おらが街ふるさと創り研究会
No.4	インテック	No.10	クリーン・エネルギー・ネットワーク有限責任事業組合
No.5	株式会社アクトメディカルサービス	No.11	福島県雨水活用事業協同組合
No.6	株式会社フツロ		



主催：(財)郡山地域テクノポリス推進機構  
 共催：郡山地域テクノポリス市町村協議会  
 郡山地域テクノポリス推進協議会  
 実施年月日：平成18年1月24日(火)  
 実施場所：ビックパレットふくしま  
 参加人員：約100名

## 演題

### 「売れるものをつくらんかい」 ～地域中小企業の底力で生まれ変わるモノづくり～

講師：株式会社ロダン21 代表取締役 品川隆幸氏



「ダメなら、ほかのことをせんかい！  
 くよくよ悩んでおらんと、新しいこと  
 せんかい！ホンマに売れるモノ、つくり  
 まっせ！」をスローガンに掲げる約  
 200社で構成される異業種グループ「ロ  
 ダン21」。

中小事業所が集まる東大阪市は、ま  
 さに町工場の町。ここでも不況の嵐は  
 吹き荒れているが、一社でもがいてば  
 かりいずに、皆で「アイデア」を出し合い、  
 困難に立ち向かおうと結成された。品  
 川氏の自らの失敗談も交えながら、こ  
 れからのものづくり・異業種交流につ  
 いてお話いただきました。

◆東大阪には約8,000社の製造業者が  
 あり、その80%が従業員数20人未満の  
 事業所であり、さらにそのうちの50%  
 が4人以下の「サンチャン企業」である。  
 しかし、全国、全世界に通用するオンリー  
 ワン企業は約150社も存在する。

◆アライアンス(企業連携)は、他社の  
 宣伝がお互いに行えるような関係にな  
 ればその実現は可能である。またメン  
 バー企業同士、秘密保持契約を締結し  
 ておくことが重要である。

100件のアライアンス持ち込み案件  
 のうち、70件は単なる製品化の願望の  
 表明にすぎず、新製品の発想・アイデア  
 に結びつく見積案件となるのは、残り  
 30件程度に過ぎない。

売れるものをつくるためにダメなら  
 他のことに目を向けていかなければなら  
 ないが、技術力をもっているところ  
 であれば、第2創業は今得意としてい  
 る仕事の延長上で考えた方がよい。

◆中小企業は、世の中に出ている製品  
 の「不のつくもの」すなわち不満足、不  
 具合などがあり、完成されていない部  
 分の隙間をねらい、改良型を極めてい  
 く方が成功率が高い。

・世の中になくもの⇒これは絶対に売  
 れない。  
 ・売れると思うもの⇒すでに世の中に  
 いっぱい出回っている。  
 ・リサーチ不足⇒ものまね製品になっ  
 ている。

◆商品化したクイックキャッチャー(消  
 防用低水位吸水機)やケーブル君(屋内  
 配線ねじれ防止装置)は、アイデアを出  
 し合い改良型として2番手をねらった  
 もの。

また「製品カタログを持って自分で売  
 り歩くより、他社(他者)に売ってもら  
 うことが重要。」自社宣伝は信用されず  
 意味がない。異業種仲間で評判になれば、  
 そのつながりで売れてくる。

クイックキャッチャーも東京消防庁  
 で採用になってから、瞬く間に全国の  
 消防車に標準装備されるほどになった。

◆売れなかったもの

- ・製造業が考えても売れない⇒注文  
 を呼び込むような体制をつくる。
- ・デザインとカラーの無頓着。
- ・データがない、検証がない。
- ・ネーミングとパッケージに魅力が  
 ない。
- ・カタログが意味不明。
- ・市場価格を無視した商品  
 ⇒原価積み上げしかやらない。  
 ⇒自分で思う値段の1/4にしか実際  
 には評価されない。

◆企業コラボは、ともすると表面的な  
 やり取りに終始することが多いが、ア  
 ライアンスは本音を出し合い、秘密保  
 持契約を締結するなど、「縁組み」によ  
 る協力関係を形成して取り組む必要が  
 ある。

図面がなくても受注する「横うけ」「仲  
 間うけ」が多いのが、東大阪での特徴。  
 アライアンスの構成として、一業種

一社というのではなく、一業種多社で  
 なければならない。

その中で、競争や時には「くさし、(け  
 んかめいた真剣な議論)が行われるこ  
 とで切磋琢磨があり、進歩がある。

案件については、外部からのコーデ  
 イナーが関わるのではなかなか成功  
 しない。

その前提としては、基本特許を取得  
 していない技術を守るために、やはり  
 秘密保持契約の締結が必要である。

◆最終的に企業がメーカーになるため  
 には、製品企画を、市場性やマーケティ  
 ングの視点から評価したうえで、製品  
 化可能なものについては試作し、さら  
 にはネーミング・パンフレット・パッケ  
 ージに至る一連の流れをトータルにプロ  
 デュースしていく能力が求められる。  
 その一連の流れを経て、製品は初めて「商  
 品化」されるのである。

※講演の後は、品川氏の著書『東大阪元氣工場』(小学館  
 文庫)にサインを求めた参加者の列ができる  
 「サイン会」となり、盛況のうちに終了いたしました。



「東大阪元氣工場」  
 (小学館文庫)

主催：(財)郡山地域テクノポリス推進機構(福島県委託事業)  
実施年月日：平成17年度

公募型ユニバーサルデザイン製品開発支援事業選定評価委員会  
委員長 若井正一

◆ 本事業は、広く福島県内の事業所などを対象にユニバーサルデザイン製品の提案を公募して、そこで選定された提案が具体的な製品となるまでの支援プロジェクトです。2年目となる平成17年度は、日本におけるユニバーサルデザイン分野の先駆者の一人である千葉大学・清水忠男教授を専門アドバイザーに招聘して、新たなUD製品の開発に向けて鋭意ご指導をいただきました。なお、選定評価委員会は、県内外の当該分野における各界を代表する11名の委員で構成されました。



若井委員長

◆ 応募があった提案件数は、製造系や情報系の事業所および団体から9件でした。これらの応募案について選定評価委員会では、ユニバーサルデザインの7つの原則と3つの付則などの条件にもとづいて慎重に個別評価を行いました。特に、今回注目した点は、選定された製品が具体的な商品として市場に展開されることを想定して、その可能性や将来性などに力点を置きました。その審議の結果、最終的に各委員による投票で比較上位となった「室内用快適待合ベンチ」と「くるっとちゃぼん(回転木製台座式入浴補助椅子)」の2つの提案が選定されました。いずれも不特定多数の人が使用することを想定した具体的な提案で、ユニバーサ

ルデザイン製品として新たな展開が期待されたものです。なお、比較上位ながら次点となった複数の提案については、選定評価委員会としてフォローアップのためのアドバイスを別途実施いたしました。今回選定された提案は、前回選定された提案がやや工芸的な要素の強い製品であったのに比べて、より生活に密着した実用品を目指したものとなりました。

◆ 選定された2つの提案は、本事業の支援プログラムに従って専門アドバイザーの清水教授に直接ご指導をいただきながら、「ふくしまユニバーサルデザインフェア」などにおいて適宜消費者モニタリングを実施しました。この間、選定評価委員会の中間報告会などにおいて、各委員からも提案者に対して商品化に向けた忌憚のない助言が行われました。それらを踏まえて、最終的な成果品としてまとめられた2つの製品は、ユニバーサルデザイン分野の新たな展開を期待させるモノとなりました。

◆ 今回の成果品には、清水教授が提言している「思いやりのデザイン」が随所に表現されています。例えば、「室内用快適待合ベンチ」には、幼い子供が座れるスツール型の小椅子群が多様に展開されてシステム化の兆しを感じられ、温泉浴場の入浴を想定した「くるっとちゃぼん」には、浴場以外の段差のある生活場面においても身体を移乗する装置と



室内用快適待合ベンチ

して展開できる可能性が予期されます。

◆ 日常生活場面における生活者の安全性や健康性が求められる昨今ですが、福島型ユニバーサルデザインのモノづくりは緒についたところです。そんな中で、昨年度本事業で選定された複数の提案が商品化されて、福島発のUDクラフト製品として広く欧米に紹介されたことは、当該選定評価委員会としても大変栄誉なことと存じます。本事業をはじめとする福島県のユニバーサルデザインへの積極的な取り組みなどにより以前にも増して県民のUDへの関心は少なからず高くなっています。しかしながら、欧米におけるユニバーサルデザインに対する認識は、日本の場合とはやや違いがあるようです。

◆ 今後、ユニバーサルデザインの理念をもとに更なるモノづくりを展開させるには、単に商品化のみに拘泥することなく、多様な消費者のニーズを的確に把握して共用品を持続的に創出する支援システムの構築が肝要です。そのためには、「モノからの発想」だけではなく、人間が固有する身体寸法などのハード面と生理・心理的な特性などのソフト面からその本質を深耕する「ヒトからの発想」が求められます。



くるっとちゃぼん(回転木製台座式入浴補助椅子)



報告書

## 第7回産・学・官連携フォーラム(平成18年度IT交流プラザ第6回)

主催: 日本大学工学部工学研究所  
(財)郡山地域テクノポリス推進機構  
郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会

実施年月日: 平成18年7月14日(金)

実施場所: 日本大学工学部 50周年記念館

参加人員: 約120名

今年で7回目となるこのフォーラムは、第1部ではものづくり大学名誉教授の上田惇生先生が、産学官連携の在り方についてアメリカの経済学者ドラッカーの経営思想の観点から講演し、第2部では「郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンター」が担う期待と課題について、産学官の代表がパネルディスカッションを行いました。

### 第1部 基調講演

「文明の担い手としての産学官連携—ドラッカー経営思想の真髄」

ものづくり大学名誉教授 上田惇生氏

◆ 文明というものを考えれば、産学官の連携は当然のことであり、それが今本格的に始まるということである。

◆ ドラッカーが推奨する言葉、何をもちて憶えられたいか。人は、日常の一つ一つの動きの中で、自分が成りうるもので今の自分よりいいものとして憶えられたものである。そうすれば、あらゆる行動が正しい方向に向いていくものである。視線がちょっと上を向くことによってすべてが変わるものである。

◆ 例えば、郡山のインキュベーションセンターは何によって、何をもちて憶えられたいか、そういう意識を持って取り組んでいくことが大切である。すなわち、描くということが、すべてを変えていくものである。

### 第2部 ディスカッション

「郡山地域テクノポリスものづくりインク

ベーションセンターへの期待と課題」

【コーディネーター】

藤原雅美氏(日本大学工学部工学研究所次長)

【パネリスト】

・藤島初男氏(福島県商工労働部地域経済領域産業創出グループ 参事)

・鈴木茂清氏(郡山市商工労働部商工振興課長)

・内藤清吾氏(株式会社内藤工業所代表取締役社長)

・小沢喜仁氏(福島大学副学長(研究担当)・附属図書館長)

・金澤良弘氏(日本大学産官学連携知財センター副センター長)

・熊田正治氏(財団法人郡山地域テクノポリス推進機構/常務理事)

・清水誠二氏(日本大学工学部機械工学科教授)

◆ はじめに、テクノポリス推進機構の熊田常務理事から、郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンターの概要について説明がなされた。

◆ 近年、大学のものづくりの力は落ちており、日大の機械工学科では、今年度から学部2年生に対して工作実習を再開しているが、今夏、学内にインキュベーションセンターが開所され、そこに試作センターが備え付けられているため、それをうまく活用できることを期待している。(清水氏)

◆ インキュベーションセンターには、起業

家とのパイプ役やテクノポリス圏域の独自の製造業などの創出による地域経済の活性化を期待している。(鈴木氏)

◆ 福島県ハイテクプラザとインキュベーションセンターの連携を図っていくことが大切である。(藤島氏)

◆ 県内の15大学等で、福島県高等教育協議会というネットワークを形成しているが、そういったネットワークに産業界が積極的に関わり、連携を深めていく必要がある。(小沢氏)

◆ 入居者がビジネスモデルとして確立していくことができるような支援など、インキュベーションマネージャーの果たす役割は非常に大きい。(藤島氏)

◆ 複数の企業が組んでインキュベーションセンターを中心としたプロジェクトを進めていけるような体制が取れることを期待している。(内藤氏)

◆ インキュベーションセンターを活用して、近くに顔の見える距離で、企業同士の連携を深めることが非常に重要である。(内藤氏)

### 第3部 ポスターセッション

大学から15の研究テーマが公開され、盛会のうちに終了しました。

リーフレット



基調講演



パネルディスカッション

## 平成17年度IT交流プラザ第7回「クリエイターズフォーラム～ホームページの未来～」

主催: 郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会

(財)郡山地域テクノポリス推進機構

実施年月日: 平成18年1月28日(土)

実施場所: ビッグパレットふくしま

参加人員: 約100名

郡山地域でのインターネットの活用拡大とWeb技術の向上をめざし昨年7月から9月にかけて開催した「郡山地域ホームページコンテストNet 6 グランプリ」の受賞者表彰式と、「Web2006Web標準からWeb2.0まで～CSS、Web2.0ポイントと実例～」と題した講演会を開催いたしました。

第1部『郡山地域HPコンテスト表彰式・作品発表会』

・表彰式

プレゼンター: (財)郡山地域テクノポリス推進機構 常務理事 熊田正治氏

賞名	応募運営者	受賞HPタイトル
グランプリ	ストアハウス	福島県の美味しい食材お取り寄せ 福うらら
優秀賞	アングルエム	パン作りにおける情熱は福島県内随一 パン職人オ・バストンオフィシャルサイト
企業部門賞	(有)オオコシ通商	ガイドポストWeb
教育機関部門賞	郡山市立芳山小学校	「かおりの園」芳山小学校ホームページ
教育機関部門賞	郡山市立郡山第四中学校	郡山第四中学校ホームページ
クリエイター個人趣味奨励賞	加藤 祐二	デジタル写真館
審査委員特別賞	株式会社 想健	いにしえ
創作部門テーマ奨励賞	宮岡紀久夫	miyasanのふるさと写真館
創作部門テーマ奨励賞	橋本捨五郎	福島地方の歴史物語

・発表会

コーディネーター: HPコンテスト審査委員長 日本大学工学部情報工学科 助教授 加瀬沢正氏

応募総数72点の中から、グランプリ

など9つの作品が入賞し、発表会では受賞者の方々から制作の際の苦労話などを披露していただきました。

第2部『Web2006Web標準からWeb2.0まで～CSS、Web2.0ポイントと実例～』

講師: (株)ロクナナテクニカルディレクター 中村享介氏 (1)講演会「Web2.0時代のインターネット」

Webの次世代(Web2.0時代)について、今までのWebとどこが違うのか、既に始まりつつあるサービスを参考しながら、既存のサ



加瀬沢正氏



中村享介氏

イトとの違いなどを具体的に説明していただきました。Web2.0時代では、各サイトは、ユーザーと協力しながらサービスを提供し、また他のウェブサイトともつながり、次世代のインターネットとして、生活の基盤となっていくであろうとのことでした。

(2)セミナー「Web標準のためのCSS

テクニック」

Web標準とはどんなことを言うのか、それに対応するとどんなメリットがあるのか、またWeb標準に準拠するためには具体的にはどんなことをすればよいのかについて、講演していただきました。講演の後半には、ウェブ標準に対応するための処方の一つであるCSS(Web

サイトのレイアウトを定義する規格)の実際のソースを例示しながら、レイアウトの実装テクニックを披露していただきました。会場からは、参考になったという意見も多数寄せられました。

## 平成18年度IT交流プラザ第1回「情報システム災害対策セミナー」

主催：福島県高度情報化推進協議会  
共催：郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会 有限責任中間法人福島県情報産業協会  
協力：株式会社エフコム  
実施年月日：平成18年5月19日(金)  
実施場所：ビッグパレットふくしま  
参加人員：約200名

IT社会を揺るがすさまざまな出来事に対処し、事業の継続性を維持できるマネジメント態勢の確立、情報システムの構築が急務とされる今、自治体・企業の事業継続計画、情報セキュリティポリシー策定のための実践的な情報提供の場として「情報システム災害対策セミナー」を当協議会共催で開催いたしました。

【第1部】  
「中越地震における情報部門の対応について」

講師：新潟県長岡



竹田秀雄氏

市企画部情報政策課課長補佐  
竹田秀雄氏

新潟県で起きた中越地震の際、長岡市の情報担当者として、経験したことを教訓に講演していただきました。

◆ 防災用のシステムやマニュアルがあっても、実際に災害が起きればほとんど役に立たない。災害が起きたら、何をすればよいか自主的に考え、迅速に行動に移し、自分の担当ではない(マニュアルでは担当外)分野にも柔軟に対応することが大切。

そして、災害が起きたことによって、行政がしなければならない課題や、あった方がよいシステムへの具体的なイメージ、判明した反省点を次の情報化につなげていくことが大切である。

【第2部】

「情報漏洩(情報セキュリティ)事故発生時の対応について」

講師：財団法人関西情報・産業活性化センターIDC事業部 部長 木村修二氏

平成11年5月に京都府宇治市で発生

した住民情報漏洩事故の際に、市側の当事者として事故に関わった経験をもとに講演していただきました。

◆ 情報漏洩(情報セキュリティ)

について考える際には、「情報主体」と「情報保有者」の2つの立場があるということをもっと理解し、情報漏洩とはどんなことをいうのか定義の仕方が大切。

情報漏洩とは情報主体の権利を侵すことだと定義づければ、情報セキュリティでなければならないことは、情報主体の権利を保障するセキュリティシステムをつくることであり、情報が外に漏れないよう「機密性を確保すること」ではない。

情報主体が安心して情報を預けられるようなセキュリティをつくり、それを情報主体が理解できるように説明することが大切である。



木村修二氏

## 平成18年度IT交流プラザ第2回「クリエイターズセミナー①～これからのWebのあり方～」

主催：郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会 (財)郡山地域テクノポリス推進機構  
実施年月日：平成18年5月31日(水)  
実施場所：ビッグパレットふくしま  
参加人員：約60名

郡山地域(郡山市、須賀川市、鏡石町、石川町、三春町、玉川村)で活躍するクリエイター(ホームページ制作者)のスキルアップ支援と、ホームページの活用を図るため、またこのクリエイターズセミナーを通して、今年度のホームページコンテストを活発に盛り上げていただくため、エヌケー・テック(株)代表取締役内藤清吾氏のコーディネートにより、年5～7回とシリーズ化したクリエイターズセミナーを開催することとなりました。

第1回目は「これからのWebのあり方」と題し、Web2.0時代の傾向とビジネス手法について、(株)リアルインデックス

の代表取締役である二瓶崇氏にご講演いただきました。

●セミナー「これからのWebのあり方」

講師：(株)リアルインデックス 代表取締役 二瓶崇氏

◆ Web2.0とは「インターネット上で起きている新しいWebの変化と方向性を表現した概念的なもの」であり、今ある何かをバージョンアップさせることではない。

技術がなくても簡単に情報発信できるブログや、ユーザー参加型のサイト、また自分の好みにカスタマイズできるサイトなどがWeb2.0のサイトと言われており、今後インターネットはますます生活に浸透し、生活の基盤(プラットフォームとしてのWeb)となっていくものと考えられる。

また、Web2.0時代に必要な知識とし



二瓶崇氏

て「ロングテール現象」や「マッシュアップ」など、インターネットユーザーの多くの支持を集めるWeb2.0という流れは今後も続くだろう。

また、WebだけでなくITには今後もさまざまなフィールドがうまれてくる可能性があり、その中で自分の力を発揮できる分野を見つけたい。

※ロングテール…マーケティングなどの分野では、経験的に上位2割の商品の売上が全体の8割りを占めると言われてきたが、インターネット上ではこの法則があてはまらず、むしろ下位8割の商品の売上が、全体に体して無視できない割合を占めるという現象のこと。

※マッシュアップ…複数の異なる技術やコンテンツを組み合わせる新しい技術やサービスをつくること。



内藤清吾氏

## 平成18年度IT交流プラザ第3回「クリエイターズセミナー②～ブログの活用法～」

主催：郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会  
(財)郡山地域テクノポリス推進機構  
実施年月日：平成18年6月21日(水)  
実施場所：ビッグパレットふくしま  
参加人員：約60名

クリエイターの相互研鑽をはかり、郡山地域内のクリエイターのスキルアップ支援をし、またホームページコンテントを活発に盛り上げていくために、シリーズ化して開催しているクリエイターズセミナーの第2回は「ブログの活用法」と題したブログの効果的な使い方の方の講演会を開催いたしました。

### ●セミナー

#### 「ブログの活用法」

講師：とりココ.com

代表 三坂丈晴氏

自身のサイト「とりココ」でも、ブログを効果的に使いながら、検索エンジ

ン最適化(SEO)対策を常に意識したサイト作りをしている三坂氏が、ブログはなぜ検索エンジンに強いのかという理由をもとに、効果的な使い方について熱心に説明されました。

◆ ブログのメリットとして、ホームページと違って簡単に作成・更新ができる点、トラックバックなどコミュニケーション機能が付属している点、自動配信システムのRSS機能など購読しやすい点、検索エンジンで上位に位置しやすい(宣伝が容易)という点を挙げられる。

また、デメリットとしては、時系列に記事が並ぶので、記事が流れてしまう点、ブログ提供会社によってデザインがばらばらという点を挙げられ、「ブログ」はホームページとは異なったものであると認識すべきである。

ブログの効果的な活用としては、ホームページに組み込むことが有効であり、検索エンジンで上位に位置しやすいブログをホームページに組み込むことで、ブログからホームページへの誘導、誘

客が可能となる。

その実現方法としては、ホームページもブログもデザインの統一をはかり、ブログを訪れた人が、ホームページを覗けるような仕組みを作ることが大切である。

ホームページにブログを組み込んでいけば、相互リンクにもなり、アクセスは倍増になるかもしれないが、どちらにしてもそこを訪れた人が長く居てくれる工夫やサイトの充実化が最も大切である。



三坂丈晴氏

## 平成18年度IT交流プラザ第4回「ネットショップオーナー育成セミナー」

主催：郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会  
(財)郡山地域テクノポリス推進機構  
実施年月日：平成18年6月22日(木)～平成18年7月20日(木)  
毎週木曜日、13時～17時  
実施場所：郡山商工会議所会館  
参加人員：10名

比較的小規模な企業さんや個人で事業を展開されている方、またこれからインターネットを通じて新たに起業する方を支援するため「ネットショップオーナー育成セミナー」を開催いたしました。

このネットショップオーナー育成セミナーは、受講者募集開始から、約1週間で定員に達するという大変人気の高いセミナーとなりました。

講師：(資)パソネットワールド

パソコンインストラクター

石井朋美氏

内容：ネットショップを立ち上げるには、さまざまな方法がありますが、今回は簡単にネットショップを作成できるツール(ソフト)を使ってネットショップを自作する方法を学びました。

受講者：10名

約1ヶ月間に渡る講座の中で、ネットショップの実情やネットショップを

立ち上げるための知識、そのほか準備すべき様々なことを学んだ上で、ネットショップ作成ソフトを使いながら、実際にネットショップを自作して、商品をアップロードできるよう学習していただきました。

セミナー終了後受講者からは、さっそく自分の商品をアップロードさせ

てネットショップをはじめてみたいという意見や、ネットショップを立ち上げればその日から簡単に営業ができるものと考えていたが、実際の運営には創意工夫が必要なのもわかったという意見などが寄せられました。



ネットショップオーナー育成セミナー

主催：(財)郡山地域テクノポリス推進機構

郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会

実施年月日：平成18年1月18日(水)～平成18年2月24日(金)

実施場所：日本大学工学部

参加人員：27名(全体)

市場で必要とされるソフト系IT分野の担い手となる人材を育成するため、日本大学工学部と連携し、3つの研修コースを用意した「高度IT人材育成事業」を実施いたしました。

●提案型IT技術者養成講座

研修期間：平成18年1月18日(水)～1月31日(火)(内9日間、60時間)

研修内容：ユーザーの抱えている経営課題(ニーズ)を見抜き、そこからそのニ

ズを解決するために必要な情報システムの計画・企画を行い、それらを効果的に提案する手法について学びました。

受講者：7名

受講者からは、今後の仕事に応用していくべきことを学べ、大変勉強になったという感想が聞かれました。

●高度技術エンジニア養成講座(XML1・基礎コース)

研修期間：平成18年2月1日(水)～2月13日(月)(内9日間、60時間)

研修内容：既存のマークアップ言語の問題点を解決するために開発されたXMLについてその基礎から学び、XML形式の文書の作成やその周辺技術(DOMなど)についても学びました。

受講者：10名

受講者からは、非常にわかりやすい

講座で、ホームページやXMLシステムの構築へ活かしていきたいという感想が聞かれました。

●高度技術エンジニア養成講座(XML2・応用コース)

研修期間：平成18年2月14日(火)～2月24日(金)(内9日間、60時間)

研修内容：WebサービスにおけるXMLの活用など、XMLの応用技術だけでなく、プログラミング言語として広く利用されているJavaとの連携など、実際にXMLを自在に使えるような技術を学びました。

受講者：10名

受講者からは、講座の内容が大変ボリュームがあり、研修期間がもう少し長くても良かったという感想も聞かれました。



XML1-基礎コース



XML2-応用コース

平成18年度炭の研究会「開発進捗事例発表」と「平成15～18年度炭の研究会活動経過」について

主催：(財)郡山地域テクノポリス推進機構

実施年月日：平成18年3月3日(金)

実施場所：ビッグパレットふくしま

参加人員：約40名

◆平成18年度炭の研究会「開発進捗事例発表」

炭の研究会の活動を契機に会員企業の中から具体的な研究開発が進められており、一連の活動の節目として、共同で取り組まれている開発進捗事例の発表と研究会アドバイザーの柳沼先生からのアドバイスをいただきました。

①「竹炭燃料製品の研究開発」

ホワイトプロダクト(株)福島工場 工場次長 橋本萬太郎氏

(有)竹炭工芸都美と共同で大小の竹炭を特殊原料で接着し、見た目が美しい華炭を製作、臭いや煙の少ない製品を開発中であり、これらの開発過程や商品化に向けての展望について、会員向けの情報提供をいただきました。

②「竹炭燃料製品の解説、講評」

日本大学工学部工学研究所テクノポリス技術サポートオフィスNU 技術アドバイザー 柳沼力夫氏  
短時間で着火し、煙や臭いが出ない、そして使用面で安全な商品開発が望まれると話されました。商品の名前も重要であり工夫が必要とのこと。また、アルコールや灯油と違う遠赤外線による輻射熱の特徴を強く打ち出すべきであると提言されました。

◆「平成15～18年度炭の研究会活動経過」について

「炭の研究会は、平成15年8月に発足し(会員113名)、炭の新事業創出を目指し、基礎的な勉強会の開催や講演会、ブレインストーミングなどの活動を行ってまいりました。

NUの柳沼先生をアドバイザーに迎え、炭の多様な活用法や市場ニーズなど会員間で炭に関する可能性を探り、情報交換を得られたところです。

研究会の11回にわたる活動を契機に、会員企業の中で数件の具体的な研究開

発が進められているところです。

当初、約2年間の活動期間を定めて行ってきた「炭の研究会」は、所期の目的を達成したとみられることから活動を終了し、今後は、具体的な研究開発や起業化案件について、当財団が行っているテクノポリス圏域内の中小企業者に対してのコーディネートや助成制度等の活用による支援に移行してまいります。なお、炭に関する研究相談案件は、引き続き当財団が窓口となりますのでお気軽にお問い合わせください。



炭の研究会「開発進捗事例発表」

# 平成18年度上半期 各種助成制度の技術等審査委員会審査結果

主催：(財)郡山地域テクノポリス推進機構  
 実施年月日：平成18年6月19日(月)  
 実施場所：ビッグパレットふくしま

テクノポリス推進機構では、企業や企業グループ(産学連携を含む)の研究開発活動並びに新事業創出への取り組みを支援するために各種助成制度を設けております。

このたび、技術等審査委員会を開催し、平成18年度上半期の助成事業の対象事業を次のとおり決定いたしました。

## 【研究開発助成】

(株)吉城光科学

「ステンレスへの薄膜コーティング技術の実証と体内で使用する低侵襲性治療用医療器具X線可視化技術の開発」

光学用精密製品開発製造の(株)吉城光科学(本社須賀川市)は、このほど(財)郡山地域テクノポリス推進機構の助成を受けて、X線にも写る血管内治療用カテーテル等の開発に着手しました。

低侵襲性治療(数mmから数cm程度の小切開のみで、従来の外科的治療に匹敵する治療効果が得られる治療法)のひとつである血管内治療に用いられているカテーテル(細い管)は、ガイドワイヤーから血管内に移動するとX線には写らず、ステント(血管を拡張させる金属製の網状チューブ)も写りにく

いという難点があります。

同社の保有する薄膜コーティング技術を応用して、ステンレスが素材のこれからの医療機器に、体内でも安全な貴金属をコーティングすることにより、X線に写りやすくしようというものです。

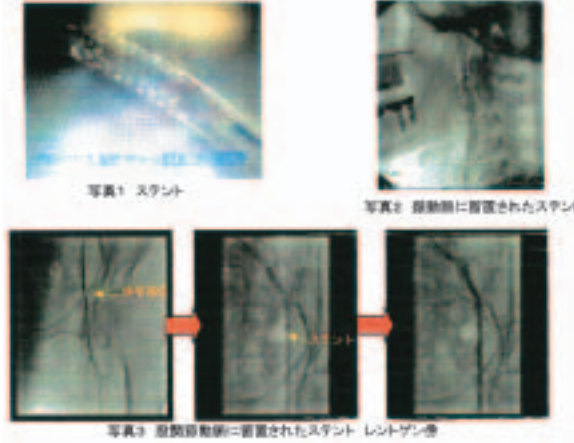
これにより、治療の精度が飛躍的に向上し、治療時間も大幅に短縮されることから、医師及び患者の負担が大幅

に軽減されることが期待されています。

また、「工業製品のユニバーサルデザイン(UD)化」に力を入れている同財団も、最先端の医療機器分野におけるUDへのアプローチとして注目しています。

テクノポリス推進機構からの助成金額は300万円。

## 研究開発の背景



近年までの心臓外科、脳外科または内科の臓器移植は大きく切開(開頭)し外部からその患部に治療を施してきた。しかしながら、必要だったとはいえ、患者の肉体的・精神的負担は非常に大きく、回復には相当な時間を要した。近年ではこの患者の負担軽減のため、低侵襲治療として消化器の内視鏡(腹腔鏡)下手術、血管内のカテーテル手術が注目されている。

このカテーテルも進歩をし、血管を広げるステント留置、動脈瘤の除去まで行えるようになった。しかしながら、上述のステントや、カテーテルのガイドワイヤーから出ている部分は線径が細く、かつ材質がステンレスや形状記憶合金であるため、その素材の原子番号が小さいため、X線吸収量が小さくレントゲン写真には写りにくい。

さらに血管の形状をレントゲン写真で確認するため、血管造影剤を注入すると全く見えなくなる状況である。X線には非常に映りにくいため、医師は手術をある程度「勘」にたよるところが多い。したがって、血管内手術には「見えないリスク」があり、危険をはらんでいる。そこで、これらの体外からX線で確認できれば、リスクは解消されるし、販売単価が非常に高額であるためかなりの売り上げを見込むことができる。

# シアンを用いないヨウ素-ヨウ化カリウムによる金剥離液の開発及び金剥離液のリサイクル構築~テクノポリス推進機構平成17年度(上半期)研究開発助成事業~

## 1.企業名

共栄メタル株式会社東北事業所

## 2.事業の内容

- 貴金属地金の売買
- 貴金属加工品の製造及び販売
- 貴金属化合物の製造及び販売

## 3.研究の必要な理由

金を回収する一般的な手法としてシアンイオンによる剥離が使用されていますが、シアンイオンは大気汚染及び水質汚濁などの原因となる有害物で環境に対する負荷が大きく、シアンイオンに替わる新たな金剥離液の開発が求められています。

本研究で使用されるヨウ素はリサイクルができ省資源に寄与し、また本研究にて使用する処理液は電子部品、半導体や電極配線材などエッチング剤にも応用ができ、めっき業界への活用も期待できます。

## 4.現在までに行われている基礎となる研究

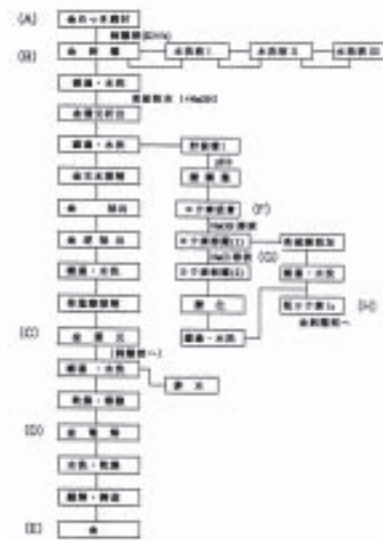
基礎となる技術として、シアンイオンによる金の剥離・溶解・回収の実績があり、シアンイオンに替わる金剥離液

としてピーカーレベルでのヨウ素+ヨウ化カリウムによる実験で剥離・溶解は実証済みです。

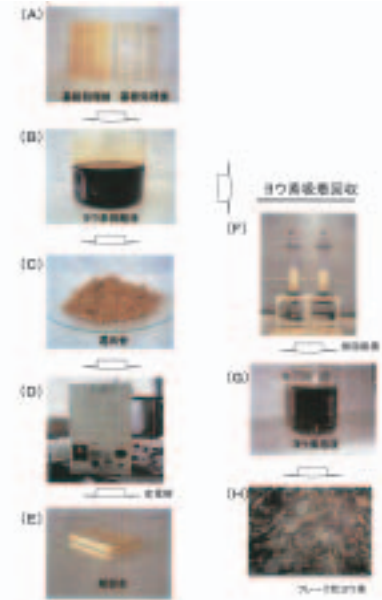
## 5.今回の研究開発の成果による起業化の見通し

一連の実験を通して電子基板材にメッキされた金の剥離とヨウ素の回収は

実用性があることが確認でき、本研究のヨウ素は劇薬ではありますがZnによる還元と電解工程でヨウ素を単独回収することにより、ヨウ素を剥離液として循環利用することができ無公害の金の回収が実現できました。



ヨウ素イオンを無害化する金剥離液のシステム



金の剥離システム

## アドホック研究会(郡山)～会長 坂口進～

会員:18名  
平成18年の開催例会

1月 テクノポリス新春講演会(ピックバレットふくしま)参加  
講演「地域中小企業の底力で生まれ変わるモノづくり」  
講師:(株)ロダン21代表取締役  
品川隆幸氏

2月  
「郡山市ものづくりセミナー」参加  
講演「こおりやまへの医療福祉機器関連企業の集積を目指せ」  
講師:日本大学工学部教授  
尾股定夫氏  
講演「プロジェクトX～挑戦者たち～に学ぶ」  
講師:NHKエグゼクティブプロデューサー 今井彰氏  
交流会

3月  
平成18年度事業(重点事業)の検討

4月  
「平成18年度総会」

平成17年度事業実績報告・収支決算報告書、平成18年度予算案、役員改選について審議し承認された。

5月  
平成18年度事業計画(月別テーマ)について

6月  
21世紀型ものづくり

〈ユニバーサルデザイン〉  
「ものづくり・地域づくりセミナー」  
参加  
講演「ものづくり・まちづくり」  
講師:岩田事務所代表 岩田桂氏

7月  
「第7回 産・学・官 連携フォーラム」  
参加



平成18年度総会

## 須賀川方部アドホック研究会～会長 吉田一興～

会員:16名

郡山地域テクノポリス推進機構内にある異業種交流グループ、須賀川方部アドホック研究会(会長 吉田一興)は、技術情報の交流と、幅広い研究を通しての新事業開発や生産販売面での相互

協力を促進し、会員企業の成長発展と地域産業の振興に貢献することを目的に活動しています。

参加会員は、須賀川市、鏡石町、石川町、玉川村の企業経営者、会社役員などの方々です。

平成18年の開催例会

1月 会員企業講演  
神田産業㈱  
(グループホームの取り組み)  
2月 プラザみなとビジネス交流会参加  
3月 平成18年度事業計画の意見交換会  
4月 定期総会  
5月 年度事業計画の決定会議  
6月 会員企業訪問  
エスケー電子工業㈱  
7月 ハウスの大規模栽培施設視察  
(有)とまとランドいわき



(有)とまとランドいわき視察

人口照明等を取り入れた食物栽培プラントの研究開発を視野に入れての視察で、当施設が誇る栽培面積2haを超える「循環式ロックウール養液栽培」についての説明を受けました。

栽培に使用する水はすべて濾過し循環させるため「水のリサイクル」が構築されており、化学農薬使用量も通常の3分の1に抑えられ、土壌の替わりのロックウールも最終的には水田などの肥料として処分可能で廃棄物がほとんど出ないほど画期的なシステムでした。

(総事業費6億7千万円)

## 郡山テクノポリス地域戦略的アライアンス形成会議

会員:45名

テクノポリス推進機構がサポートオフィスとして支援するアライアンス形成会議は、郡山地域テクノポリス圏域内の企業が保有する技術力、設備、営業力等の潜在能力を戦略的に活用する組織を構築することによって、高度な研究開発、新しい受発注及び各種産業振興支援施策の担い手となり、圏域内の産業の活性化を図ることを目的に活動しています。

### 【平成17年度事業内容】

- ・総会 平成17年6月6日(月)  
ホテルハマツ
- ・全体会 平成17年8月10日(水)  
ビッグパレットふくしま  
平成17年12月22日(木)  
ビッグパレットふくしま
- ・薬事法関連研修 平成17年9月8日(木)  
福島県立医科大学
- ・郡山地域企業戦略研究会との交流会  
平成17年10月12日(水)

- 郡山ビューホテル
- ・全体交流会 平成18年2月28日(火)  
ビッグパレットふくしま
- ・県外大手企業等に対する企業訪問  
随時
- ・パンフレットの作成  
共同受注推進を図るため、「会員企業要覧」、「共同受託会員企業ガイド」及び

「共同受託製造サービス機関」の3つのパンフレットを作成しました。

### 【平成18年度事業内容】

- ・受発注推進部会 平成18年5月22日(月)  
ビッグパレットふくしま
- ・総会 平成18年6月9日(金)  
ホテルハマツ



## 平成17年度第3回環境保全・共生科学技術研究会「人にやさしい環境づくり(産学連携開発事例)」

主催:(財)郡山地域テクノポリス推進機構  
日本大学工学部工学研究所  
実施年月日:平成18年1月27日(金)  
実施場所:日本大学工学部 50周年記念館  
参加人員:約70名

「人にやさしい環境づくり」をテーマに、テクノポリス推進機構の研究開発助成制度を活用した産学連携による製品開発への取り組み事例などが報告されました。

コーディネーター

日本大学工学部土木工学科

教授 長林久夫氏

1「心静緑感広場・雨水の再資源化システムの開発」

日本大学工学部建築学科

教授 出村克宣氏

日本大学工学部の環境推進委員会と福島県雨水活用事業協同組合との協同開発により、雨水の再資源化システムを大学敷地内に設置し、平成16年10月には国土交通大臣賞を受賞した。

自然界の水質浄化機構をシステム化して新しい形の雨水活用を目指した。

雨水をろ過し、長期に保水できる施設が生み出す付随的効果は、新たな都市型ダムとして今後有効である。

2「地元産ゼオライトを主原料としたシックハウス対応型の土壁建材の開発」

樽川技建株式会社

代表取締役 樽川美知男氏

日本大学工学部客員研究員(前建築学科教授) 岩崎博氏  
(テクノポリス平成16年度F/S助成対象事業)

土壁の主原料として、地元の高玉産土を利用できないものかと考えていた。今回、有害物質の吸着や放散能力に優れる京都産聚楽土との比較等を日本大学工学部の岩崎氏と調査したが、その結果両者にはほとんど違いのないことが、数値上からも判明したことが大きな成果である。

現在、1棟の建築実績があり、仕上がりについては、気密性能の良い、無臭の土壁施工ができています。

3「持ち運び式杭回転埋設機と不等沈下修正工法の開発」

有限会社住環境設計室

代表取締役 影山千秋氏

日本大学工学部工学研究所テクノポリス技術

サポートオフィスNU アドバイザー 佐藤光正氏

(テクノポリス平成16年度下半期地域技術起業化助成対象事業)

傾斜した住宅を、従来の方法よりも短期間で安価に元に戻す工法を開発。隣地境界地が狭隘な宅地でもこの工法が可能で、無振動、無騒音のため、居住したままでの施工も行える。ブレードパイルという杭の開発がその工法を可能にした。

日本大学工学部工学研究所テクノポリス技術サポートオフィスNUの佐藤アドバイザーは、「既存のものを解体して作り直すのではなく欠けている地盤支持力だけを付加する観点から考えると、資源の浪費を抑制する効果がある。」と評価している。

現在、地震被害地である新潟や、宮城などで実績をあげている。



パンフレット



第3回環境保全・共生科学技術研究会

## 平成18年度第1回環境保全・共生科学技術研究会「安全で安心な地域づくりと新産業創出」

主催：(財)郡山地域テクノポリス推進機構  
日本大学工学部工学研究所  
実施年月日：平成18年6月16日(金)  
実施場所：日本大学工学部 50周年記念館  
参加人員：約60名

「安全で安心な地域づくりと新産業創出」を統一テーマとし、地域企業共同研究に向けたプレゼンテーションを行いました。

〔コーディネーター〕日本大学工学部  
土木工学科 教授 長林久夫氏  
1「安全で安心な地域づくりと新産業創出」

日本大学工学部 土木工学科  
教授 長林久夫氏

◆ アイデアを新たな事業に発展させるためには、大学と企業の連携だけでなく、住民と行政の協力による地域への展開が必要となる。皆さんと夢を育てる研究会をつくり、地域から“はっしん”する事業展開をしたい。

2「自然エネルギーを利用した水素製造とマイクログリッド構想について」  
日本大学工学部 情報工学科

教授 佐藤晴夫氏

◆ 風力発電・太陽光発電・小水力発電・燃料電池等を利用した水素製造とエネルギーの地産地消を目指した小規模分散型電力系統いわゆるマイクログリッド構想を提案したい。

3「許認可の複雑な小水力利用の推進と啓蒙」

日本大学工学部  
機械工学科

助教授 渡部弘一氏

◆ 他地域の小水力利用事例等を参考に、地域行政や企業等と連携して小水力の利用の推進と実用を目標としている。

4「燃料電池を用いた小規模分散型電源装置の開発」

日本大学工学部  
電気電子工学科

助教授 上田剛氏

◆ 燃料電池は、排

電時に排出するのは水と熱のみであり、水素と酸素を利用して発電する非常にクリーンな電源装置である。分散型発電は、太陽光発電、風力発電、マイクロガスタービン、燃料電池等の方式が考えられるが、固体高分子型燃料電池が開発され、にわかに脚光を浴びている。



第1回環境保全・共生科学技術研究会

## 平成18年度第1回医療・福祉機器等関連新事業創出研究会「医療機器開発現場から見た日本医療機器産業の現状と将来」

主催：(財)郡山地域テクノポリス推進機構

日本大学工学部工学研究所

実施年月日：平成18年6月23日(金)

実施場所：日本大学工学部工学研究所  
次世代工学技術研究センター

参加人員：約30名

今回は、韓国医療機器産業の創始者である建国大学教授の

Cheolgyu Lee(リ チョルギユ)氏と歯科用インプラントのトップ企業である和田精密歯研(株)代表取締役会長の和田弘毅氏を講師にお迎えして、開催しました。

コーディネーター

日本大学工学部教授 尾股定夫氏

1「ここまで来た 歯科インプラント人工歯の近未来」

講師：和田精密歯研(株)

代表取締役会長 和田弘毅氏

年間70万本もの義歯を製造・販売する歯科技工業界のトップメーカーである和田精密歯研(株)の義歯は何よりも美味しく食べていただける歯でありたい。そして口福をもたらす歯を創ることにより快適な長寿社会に貢献したい。まだより使いやすい、口になじむ義歯を生み出す工法や技術の開発、外科主導だった従来型ではなく、同社の安全な治療の取り組みなどの紹介をしていただきました。

2「韓国における医療機器産業の創出の現状と将来」

講師：建国大学  
大学院 ベンチャー  
専門技術学科

教授 Cheolgyu Lee  
(リ チョルギユ)氏

今回、電子医療機器など世界的な医療機器産業の集積を図ろうとする原州市の医療機器テクノバレー形成に向けた取り組みについて韓国・建国大学ベンチャー専門技術学科のリ・チョルギユ教授が講演し、参加者が国内外の最前線の状況について理解を深めた。

隣国である韓国(Korea)江原道(Kangwon-to)原州(Wonju)市では政府



リチョルギユ氏

と江原道の支援により、国内外の有望医療機器製造業者誘致のための医療機器専用工業団地を造成中であり、創業から製品生産まで、総合的に支援することができる基本インフラを構築するなど、医療機器産業育成の基盤を作り上げた。

また延世大学原州キャンパスは、政府より、医療用計測及びリハビリ工学研究センターなど医療機器産業の研究支援及び実験製作用機材を完備した。原州医療機器テクノバレーは、国民の保健福祉及び生活水準の向上に直接貢献し、技術の集大成と環境保全を考えた高付加価値産業であり、21世紀の代表的な有望産業として脚光を浴びている先端医療機器産業育成のための戦略事業などのご紹介をしていただきました。



第1回医療福祉研究会

主催：(財)郡山地域テクノポリス推進機構  
 共催：日本大学工学部  
 福島大学地域創造支援センター  
 奥羽大学  
 福島県ハイテクプラザ  
 実施年月日：平成18年2月2日(水)  
 実施場所：福島県ハイテクプラザ  
 参加人員：約40名

◇研究発表

「計装化押込み試験法の開発とメゾオーダーの三次元構造物の創製」

日本大学工学部工学研究所次長  
 藤原雅美氏

◆ 一般に材料の力学的性質を正しく評価するには標準規格で定められた多くの試験片が必要であるが、先進材料や原子力材料では大きな試料を作製することが難しく、少量の小さな試験片しか用意できないことが多い。

◆ このようなことから米粒ほどの小さな試験片を用いて力学特性を評価することが可能な材料試験法が望まれており、高温力学特性値を測定できる試験装置を開発し、種々の合金の押込みクリープ試験に関する研究を行っている。

◆ また、超高集積化ICやマイクロマシン用モーターなどのクーリングフィ

ンなどの作製に、レーザー加工や放電加工の適用は現状では困難であるため、メゾスケールの優れた安定性と伝導性を有するマイクロデバイス用三次元構造物、その実効ある製造方法を開発した。

「磁気発振を利用した正弦波出力インバータの開発」

福島大学共生システム理工学類教授 岡沼信一氏

◆ 磁心に制御巻線を付加した磁気発振回路において、主励磁巻線と直列に商用周波数の交流電圧源を接続すれば、交流電源に電力を供給することが可能であり、この磁気発振回路は、正弦波出力インバータとして利用可能である。

◆ これにより既存の交流システムに簡単な装置で電力が供給できるようになる。

「歯科再生治療における炭酸ガスレーザーの応用」

奥羽大学歯学部 教授  
 横瀬敏志氏

◆ 骨組織ならびに象牙質に対する炭酸ガスレーザーの細胞生物学的な作用を調べるため基礎実験を行い、細

胞活性化する条件を選び出し、実際に臨床に応用した。

「亜鉛めっきのクロムフリー化成処理技術」

福島県ハイテクプラザ 研究開発部  
 材料技術グループ科長 渡部修氏

◆ タンニン等の天然有機化合物を使った全く新しい化成処理方法を考案し、クロムを全く使わないで従来の光沢・有色・黒色の化成処理を行う技術を開発した。



藤原雅美氏



岡沼信一氏



横瀬敏志氏



渡部修氏

テクノポリス技術サポートオフィスNU

◆ 新製品などの研究・開発にかかる技術的な相談にお応えする「日大工学部工学研究所テクノポリス技術サポートオフィスNU」がテクノポリス推進機構執務室内に設置されています。

今年度の担当アドバイザーの先生のスケジュールは下記のとおりです。どうぞお気軽にご利用ください。

◆ その他の分野[電気電子工学、情報工学、医学、歯学、薬学、生物、資源化学、

理工、生産工学、芸術(デザイン)]についても専門の先生をご紹介します。

◆ 開設日・時間  
 (火、土、日、祝祭日を除く)  
 午前10時～午後3時  
 ※午後零時から午後1時はお昼休みです。



テクノポリス技術サポートオフィスNU  
 柳沼力先生



テクノポリス技術サポートオフィスNU  
 佐藤光正先生

担当日	担当アドバイザー	専門領域
月曜日	柳沼力夫先生	工業化学
火曜日	休み	
水曜日	佐藤光正先生	機械工学
木曜日	佐藤光正先生	機械工学
金曜日	柳沼力夫先生	工業化学

## 理事会、評議会／総会、運営委員会の開催報告(平成17年12月～平成18年7月開催分)

(財)郡山地域テクノポリス推進機構  
〈平成17年度〉

第3回評議員会 3月24日(ビックパレットふくしま)

- ・平成17年度第2回補正収支予算
- ・平成18年度事業計画
- ・平成18年度収支予算
- ・一時借入に伴う担保設定

第4回理事会 3月29日(ビックパレットふくしま)

- ・平成17年度第2回補正収支予算
- ・平成18年度事業計画

- ・平成18年度収支予算
- ・一時借入に伴う担保設定

〈平成18年度〉

第1回評議員会

5月16日(ビックパレットふくしま)

- ・平成17年度事業報告
- ・平成17年度決算

第1回理事会

5月25日(ビックパレットふくしま)

- ・評議員の選任
- ・平成17年度事業報告

- ・平成17年度決算

郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会

〈平成18年度〉

運営委員会 4月19日(ビックパレットふくしま)

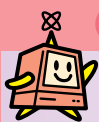
- ・運営委員の選任
  - ・平成17年度事業実績報告・決算
  - ・平成18年度事業計画・予算
- 総会 4月25日(ビックパレットふくしま)
- ・協議会委員の選任
  - ・平成17年度事業実績報告・決算
  - ・平成18年度事業計画・予算



テクノポリス平成18年度第1回理事会



ニューコム運営委員会



### ニューコメちゃんのITワンポイント

ニューコメちゃん日記 ○月×日

#### 「RSS」のススメ

◆ みなさんは、インターネットで毎日チェックするサイトはいくつありますか。最近のブログの流行でチェックするサイトが多くなった方も多いのではないのでしょうか。でもそのサイトが更新されているかどうかをチェックする作業は時間もかかりますし、せっかくチェックしたサイトがまったく更新されていなかったという経験も多いのではないのでしょうか。

◆ そこで、ぜひ使っていただきたいのが「RSS」です。

「RSS」とは「Rich Site Summary」や「RDF Site Summary」の略と言われ、サイトの情報を要約した形式(XMLで記述されたフォーマット)のことを言います。「RSSリーダー」と呼ばれるツールを使うと、RSSで書かれたサイトの情報が自動で配信され、更新情報を一早くチェックすることができます。

◆ 例えば、毎日チェックする懸賞サイトがあるとします。そのサイトの目玉商品への応募はあつという間に締切りとなってしまうので、情報が更新されたらすぐにアクセスして応募をしたい。そんな時に、そのサイトがRSS配信を行っていれば、自分のRSSリーダーにそのサイトを登録するだけで、アップ

された情報がリアルタイムで配信されてくるのです。つまり、自分がそのサイトを何度もチェックしなくても更新された情報をすぐ知ることができるのです。

◆ RSSのメリットは更新された情報がリアルタイムで配信されるということだけでなく、その他ニュースや天気予報、最新の家電製品情報などRSS配信を行っているサイトの情報を一つのリーダー(RSSリーダー)でチェックすることができるのです。ですから、ブックマークに登録したサイトをひとつずつ訪問しなくても、RSSリーダーに入ってきた更新情報を拾い読みしたり、その中から気になったものだけにアクセスしたりすることができます。またメールと違って、送られてきた情報がスパムという心配がないのも大きなメリットのひとつです。

◆ RSSリーダーの多くは無料で配布されているものがほとんどです。無数にあるインターネット上の情報を効率よく利用するためにも、今後RSSによる配信、購読は必須のものとなっていくでしょう。

## 役員・職員の紹介

### ◆(財)郡山地域テクノポリス推進機構・理事会

(任期 平成17年4月1日～平成19年3月31日)

(敬称略)

理事長 大高善兵衛

(郡山地域テクノポリス推進協議会会長・郡山商工会議所会頭)

副理事長 原 正夫 (郡山地域テクノポリス市町村協議会会長・郡山市長)

副理事長 川手 晃 (福島県副知事)

常務理事 熊田正治 (郡山商工会議所理事)

理事 相楽新平 (須賀川市長)

理事 木賊政雄 (鏡石町長)

理事 西牧立博 (前石川町長)

理事 車田次夫 (玉川村長)

理事 鈴木義孝 (三春町長)

理事 鈴木雄次 (福島県商工労働部長)

理事 深谷幸弘 (須賀川商工会議所会頭)

理事 滝田 武 (郡山地域テクノポリス推進協議会副会長・郡山地区商工会広域協議会会長)

理事 境田孝意 (郡山地域テクノポリス推進協議会副会長・玉川村商工会長)

理事 大槻順一 (郡山地域テクノポリス推進協議会副会長・郡山商工会議所副会頭)

理事 能勢秀幸 (株式会社大東銀行取締役社長)

理事 小野沢元久 (日本大学工学部長)

理事 宮野壮太郎 (福島県ハイテクプラザ所長)

理事 小山紀男 ((財)福島県産業振興センター理事)

監事 小針健治 (福島信用販売(株)代表取締役会長)

監事 横山 晃 (東北電力(株)執行役員福島支店長)

監事 佐藤頼欣 (郡山市商工労働部長)

### ◆(財)郡山地域テクノポリス推進機構・評議員会

(敬称略)

山川充夫 (福島大学理事・副学長)

大川 知 (会津大学コンピュータ理工学部教授)

依田満夫 (日本大学工学部次長)

影山 弥 (郡山女子大学家政学部教授)

藤島初男 (福島県商工労働部産業創出グループ参事)

鈴木茂清 (郡山地域テクノポリス市町村協議会事務局長・郡山市商工労働部商工振興課長)

磯 明夫 (福島県ハイテクプラザ副所長)

道喜俊弘 (福島県農業総合センター副所長)

上村和彦 ((財)福島県産業振興センター常務理事)

吉川勝郎 (吉川特許事務所長)

近藤準一 (須賀川商工会議所副会頭)

作田秀二 (郡山商工会議所 工業部会長)

福井邦顕 (郡山商工会議所 工業委員長)

吉田末男 (郡山中央工業団地会会長)

神田雅彦 (須賀川横山工業団地共栄会会長)

内山 忠 (湘東邦銀行常務取締役郡山支店長)

鶴田秀夫 (株)大東銀行取締役本店営業部長)

内藤清吾 (郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会委員)

### ◆郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会・委員

(敬称略)

(任期 平成17年4月1日～平成19年3月31日)

会長 大高善兵衛

((財)郡山地域テクノポリス推進機構理事長)

副会長 太田久雄 (郡山市助役)

副会長 小野沢元久 (日本大学工学部長)

副会長 大槻順一 (郡山商工会議所副会頭)

委員 深谷幸弘 (須賀川商工会議所会頭)

委員 滝田 武 (郡山地区商工会広域協議会会長)

委員 境田孝意 (玉川村商工会長)

委員 福井邦顕 (郡山商工会議所工業委員長)

委員 渡辺 篤 (東日本電信電話(株)郡山支店長)

委員 鈴木正博 (株)福島情報処理センター代表取締役社長)

委員 酒井良信 (株)エフコム代表取締役社長)

委員 内藤清吾 (エヌケー・テック(株)代表取締役)

委員 水上哲夫 ((有)ぱすわーど代表取締役)

委員 佐藤幹夫 (福島県企画調整部電子社会推進グループ参事)

委員 藤島初男 (福島県商工労働部産業創出グループ参事)

委員 磯 明夫 (福島県ハイテクプラザ副所長)

委員 富樫正典 (郡山市企画部長)

委員 小林正司 (須賀川市産業部長)

委員 円谷光行 (鏡石町参事兼総務課長)

委員 長沼晴久 (石川町産業振興課長)

委員 石森春男 (玉川村企画産業課長)

監事 佐藤頼欣 (郡山市商工労働部長)

監事 斎藤 隆 (郡山商工会議所理事兼事務局長)

### ◆職員

(財)郡山地域テクノポリス推進機構事務局

1 常務理事兼事務局長 熊田正治

(郡山商工会議所より出向)

2 次長兼総務部長 山下耕平 (県より派遣)

3 企画管理課長 大沼伸之 (郡山市より派遣)

4 技術振興課長 松宮崇文 (須賀川市より派遣)

5 新事業支援課長 青山茂夫 (大東銀行より出向)

6 技術コーディネーター 宮越 稔 (テクノポリス)

7 事務担当 山本美香 (テクノポリス)

郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンター

8 インキュベーションマネージャー 永島 巖

(テクノポリス)

9 技術指導員 中井浩二 (テクノポリス)

10 事務担当 千原笑美 (テクノポリス)

郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会

11 事務担当 服部志保 (ニューコメ)

## 転出・転入・採用



事務局職員

### お世話になりました

#### ●平成18年3月31日付

企画管理課長 滝田哲哉

(郡山市教育委員会中央図書館主任へ転出)

技術振興課長 鈴木康夫

(須賀川市産業部商工観光課工業振興係長へ転出)

コーディネーター 妹尾暎輔(退職)

#### ●平成18年6月30日付

新事業支援課長 新田源寿

(大東銀行白河支店へ転出)



### よろしくお願ひします

#### ●平成18年4月1日付

企画管理課長 大沼伸之

(郡山市三穂田行政センター主査より転入)

技術振興課長 松宮崇文

(須賀川市市長公室企画調整課主査より転入)

#### ●平成18年6月1日付

インキュベーションマネージャー 永島 巖 (採用)

技術指導員 中井浩二 (採用)

#### ●平成18年7月1日付

新事業支援課長 青山茂夫

(大東銀行本宮支店支店長代理より転入)

事務担当 千原笑美 (採用)

## 募集

## 「Meister's College」受講者募集

本県産業は、電気機械、精密機械、金属等の機械工業の基盤的技術に立脚した製造業が集積しておりますが、強みを活かした展開を推進するためには、企業の高付加価値化を図り、経済産業の変化への対応を積極的に図る必要があります。

これらの状況を踏まえ、福島県からの委託を受け、県内中小企業を対象に、企業、大学等高等教育機関、試験研究機関、産業支援機関等の産学官連携により、今後成長する先端技術に対応できるような基盤的製造技術の高度化を図る人材育成事業を実施します。皆様のご参加をお待ちしております。

◆名称「Meister's College」

◆対象者 県内製造業の従業員等(受講料無料)

◆募集人員 15名

◆募集期間 平成18年8月21日(月)～9月20日(水)

◆研修内容

・座学研修90時間

テーマとなる製品製造の生産工程全般に関する先端かつ体系的な知識を習得します。

・実技研修30時間

実際の機械操作等の実習を通して、必要な要素技術を習得します。詳細についてはチラシ掲載のとおり。

◆研修場所 郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンター 他

(郡山市田村町徳定字中河1番1日本大学工学部敷地内)

◆研修期間 平成18年10月から平成19年2月頃

座学・実習については基本的に平日(水・金曜日)の夜間となりますが、最終日に実施予定の先進的な企業の見学については、平日の昼間を予定しております。

◆申し込み先・お問合せ先

〒963-0101

郡山市安積町日出山字北千保19-8ビックパレットふくしま3階

(財)郡山地域テクノポリス推進機構

TEL.024-947-4400 FAX024-947-4475

e-mail techno@nm.net6.or.jp

URL <http://www.techno-media.net6.or.jp/>

